

歓談尽きることなく

首都圏昭和30年会

首都圏に50年ぶりの大雪が心配された1月24日、何とか無事新年会を開催することができました。

遠路徳島県鳴門市から畑江暢雄兄、仙台市から新田目倅造兄、初参加の佐藤博通兄などの懐かしい顔を交えて、賛助参加のあげまき会会員3人を含め24人が集いました。

物故者への黙祷、松沢研二会長挨拶（代読）に始まり、最多参加の「30会」マドンナ鈴木妙子さんの音頭で乾杯。会場はあちこちで「やあ!!やあ!!」と一挙に懇親会モードに突入。その後、初参加の佐藤さん、久々に参加の各位、遠方からの畑江、新田目のお二方からスピーチをいただき、思い出話に大いに盛り上がり、はるか昔を懐かしみました。話は尽きることなく2時間余り歓談の後、米塚正治兄の尺八による「秋田民謡」の数々にうっとり。「故郷」の合唱、元応援団長の畑江兄のリードで校歌「天上はるかに」を斉唱。名残尽きない宴を後ろ髪引かれる思いで終了しました。

次回はお互いの高齢に配慮しつつ早期の開催を託されました。（幹事・佐藤 正彦 記）



飛躍の年へと願いを込めて

秋艇会（ボート部OB会）

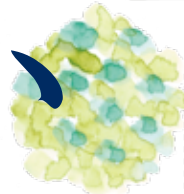
2月17日、秋艇会総会及び懇親会を昨年に続き秋田市の第一会館本館で開催した。参加者は27人。総会では池田重秀氏（昭和44卒）の挨拶と松村浩氏（昭和45卒）による会計報告があった。その後、佐藤康氏（昭和45卒）の名司会による懇親会へと移り、現役部員14人による自己紹介や新入生歓迎PV動画がスクリーンで披露された。部員の生き活きとした表情、艇の疾走感が参加者を魅了していた。選手からOBへの質疑応答もあり、短時間ながら密度の濃い交流となった。

総会後半ではそれぞれに昔話が弾み、最後は加藤正己氏（昭和56卒）によって「選手に加えボートの大会運営もバックアップしていこう」とのメッセージのもとOBが思いを一つにし、盛会のうちに散会した。（顧問・坂本 公正＝平成6卒 記）



つどい

TSUDOI



25回!! 節目の同期会開催

昭和46年卒同期会

1月3日午後5時45分から、アキタパークホテルを会場に34人が参加し、昭和46卒の同期会を開催した。恩師の先生方にもご案内を差し上げたものご出席いただけず、当会では初めて恩師の出席のない同期会となった。

最初に記念写真撮影に臨み、幹事長の菊地隆君の挨拶、県副知事の堀井啓一君の乾杯の発声で祝宴がスタート。出席者全員から近況報告をしてもらった。

定年退職後に異業種に参入したり、世界を商圏として新たに起業した同期生もいて、前期高齢者の仲間入りをした我々ではあるが、まだまだ“現役”世代の感を強く意識した。

当会は1年半ごとに同期会を開催しており、今回で25回目。次回は平成31年夏の開催を予定している。また、毎月第3土曜日午後6時からJR秋田駅前の「からす森」で、月例ミニ同期会を行っているので、都合のつく方は参加していただきたい。（幹事・堀井 深芳 記）



文武両道、現役生徒に感銘

横手平鹿支部

2月20日、横手市の松輿会館にて、三浦廣巳同窓会副会長、安田浩幸校長のご出席をいただき、横手・平鹿支部の総会が行われた。安田校長には、秋田高校が直面している課題についてお話をいただいた。以前に比べ半数ほどの生徒数でも、文武両道を貫いている話に皆、感銘していた。続いて行われた懇親会では、三浦副会長に同窓会の活動についてお話をいただいた。例年は全員のスピーチがあるが、今回は出席者が多く“代表スピーチ”となり、それでも“飲み放題プラン”が終わっても、旧交を深める姿があった。

（幹事・曾根 純之＝昭和54卒 記）

